

自己実現への道

第26回

- 運命を変える秘訣 (その16) -

-強い信念は「病」さえ克服させる - 人間ほどタフにつくられているものはない -

ノーマンピールは言う。

「私は 人間というものは本質的に丈夫であると信じている。そうであるようにつくられているのだ。

私はいつも、自分を病気知らずの人間と思うことにしている。」 さらに彼は言う。

「いつか飛行機に乗った時、乗客のところへ訪れたパイロットの話思い出す。『全く、こんな大きな飛行機が空中に浮かぶのかと思うと、いつも驚いてしまいますね。こんな重いものが、燃料をつんで、お客を乗せて、荷物まで運ぶんだから。いや全く驚きだ』と私は彼に言った。『そんなことはありませんよ』とパイロットは答えた。『空中に浮かぶのは飛行機の特長です。そういうふう設計されているんですから。飛行機のほうは、そうしたいわけですよ。やりたいことを差し止められたなら、それこそ飛行機は苦痛ですよ、何といっても空に浮かぶのが自然なんですから』」

「私がまだ若く、ニューヨーク州のシラキュースで牧師をしていた頃だが、ある夜知り合いになった医師から電話がかかってきた。彼の患者が反応を示さなくなってしまい、今にも危険が迫っているの、すぐにもきてほしいとのことだった。かけつけると、博士と看護婦が中年の女性についていた。昏睡状態に陥っているらしい。

『ひどく悪いんだ』と医師は言った。『医師としてやれることは全部やったんだが、それだけじゃダメなんだ。私は患者を治療するが、治せるのは信じる力なんだよ。君はそう思うだろう。僕もそうだ。今ここに三人と意識不明の女性がいる。信念の力が、この部屋いっぱい満ちるようにしようじゃないか。この人が答えるところを想像しよう。医学的に考えれば死ぬ理由は全くみあたらないんだよ。だが、心が弱っているらしい。彼女の心に、信じる気持ちを吹き込もうじゃないか』

私たちはベッドのわきにひざまづいた。三人で祈り、聖書の言葉をとなえはじめた。それは奇妙な、感動的な体験だった。私には部屋の中で、再生と破壊の2つの力が相争っているように見えた。

私たちは祈り、信じることによって再生力に加勢しているのだった。私は聖書の言葉を暗唱していた。何時間も過ぎた。何の変化も起こらなかったが・・・突然患者が目を開き、かすかにほほえんで、静かな眠りに落ちた。医師は脈を取った。『もう大丈夫だ。峠は越えたよ。みんなの祈りと強い信念が彼女を生き延びさせたのだ』そして、そのとおり、彼女は完全に回復した」

信念を強く持てば 「奇跡」は現実になる！

<MIKO>

☞ 参考文献：人間向上の知恵 ノーマンピール（謝世輝訳）三笠書房